

なぜプロジェクト管理がうまくいかないのか？ マネージャー必見！

プロジェクトの見える化に貢献！

プロジェクト管理ツールの 選び方・使い方

調査対象者

エリア：全国

性別：男性／女性

年齢：20歳-69歳

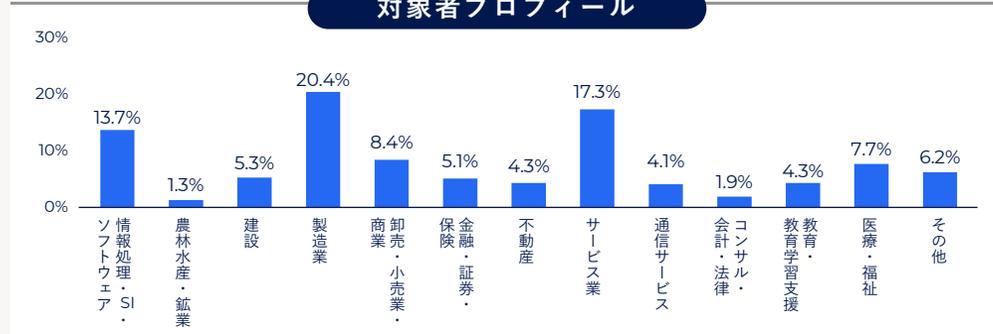
条件：現在の業務で何かしらのプロジェクト管理ツールを使用



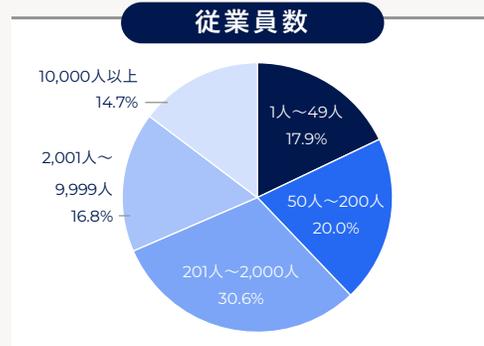
本レポートは、現在担当している業務でプロジェクト管理ツールを利用して
いる20~69歳の男女1000名に対し、プロジェクト管理の課題や利用中の
ツールの成果について尋ねた結果を集計・分析したものです。

製造業（20.4%）、サービス業（17.3%）、情報処理・SI・ソフトウェア
（13.7%）を中心として卸売・小売・商業、医療・福祉、建設、通信サービ
スなど幅広い業種を対象に、一般社員や係長・主任クラス以上の役職を持つ
ビジネスパーソンを対象にしました。従業員数の規模は2000人までの企業
68.5%、2000~10,000人以上の企業31.5%となっています。

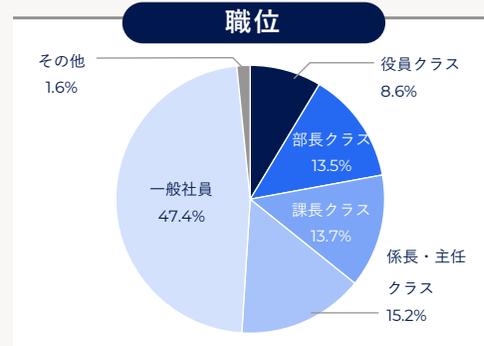
対象者プロフィール



従業員数



職位



なぜ、今「プロジェクト管理ツール」が注目されているのか

数年におよぶコロナ禍で定着したテレワークから、オフィス出社とテレワークの「いいとこ取り」であるハイブリッドワークに取り組む企業が増えています。オフィスで対面コミュニケーションが活発になることで新しいアイデアが生まれ、一方でテレワークでじっくり取り組んで作業効率を上げることで生産性の向上が期待できます。

そうしたなか、マネジメント層において新たな課題が浮上してきました。プロジェクト管理が複雑になったことです。ハイブリッドワークやテレワークは個々人の働き方をより良いものにできますが、プロジェクトマネージャーやリーダーにおいては「リモートワークで働くメンバーや他の事業所で働くメンバーとの連携が難しい」などのマネジメントの難しさを指摘する声が増えています。こうした課題解決に向け注目されているのがプロジェクト管理ツールです。

プロジェクト管理ツールはチーム全体でプロジェクトのゴールと目的を共有し、スケジュールやタスク、進捗状況などを共有してスムーズな進行をサポートするソリューションです。

そんなプロジェクト管理ツールを活用して成果を出すには、現在抱えている課題に適したツールを選ぶ必要があります。そして導入だけで満足せず、効果を最大限発揮するためにどうすれば良いかを考えなくてはなりません。

本レポートでは、プロジェクト管理ツールの利用者1000名を対象にした調査により現在のプロジェクト管理における課題を分析し、その結果を基により効果を上げるプロジェクト管理ツールの選び方、活用の仕方を提案しています。

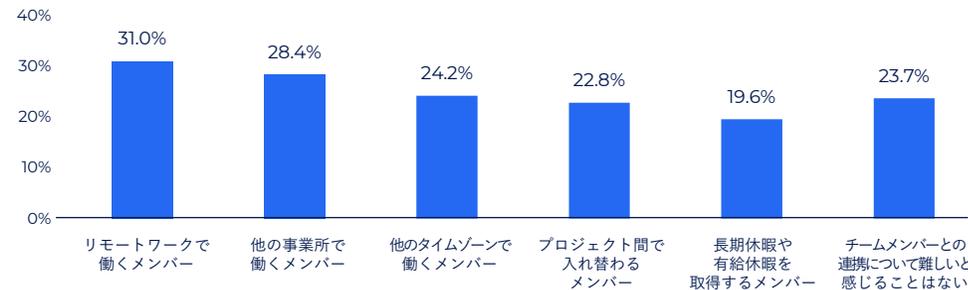
全国で進むハイブリッドワーク

オフィス回帰が進むなか、2023年4月の内閣府の発表によると、日本全国のテレワーク実施率は30.0%、東京23区では51.6%でした。

オフィス出勤も行いながら、時々テレワークを利用するといったように、オフィスと自宅／外部ワークスペースを併用するハイブリッド型の働き方が定着しています。

リモートで働くメンバーとの意思疎通が課題

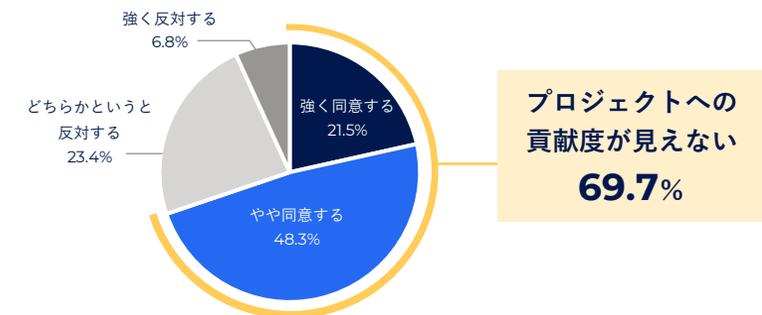
Q. プロジェクトを進行する上で、どのチームメンバーとの連携が難しいと感じるか（複数回答可）



ハイブリッドワークが進み、自宅やオフィス外で業務を遂行するプロジェクトメンバーが増えています。一方で「リモートで働くメンバーとの意思疎通が難しい」（31.0%）、「他の事業所で働くメンバーとの意思疎通が難しい」（28.4%）という声が聞かれるようになりました。

「各人のプロジェクトへの貢献度」が見えないという意見に7割が同意

Q. 下記をご覧くださいましてあなたはどの程度強く同意しますか、または反対しますか。「個人のプロジェクト貢献が見過ごされていると感じることが多い。」



意思疎通が難しくなったことで、各人のプロジェクトの貢献度を把握しにくくなるという弊害も生まれています。「個人のプロジェクトの貢献が見過ごされていると感じることが多い」という所感について、回答者の約7割が同意しています。

プロジェクトチーム間の問題で起こりがちな4つのトラブル

メンバーとの意思疎通に課題があり、各人の業務や貢献度を把握できていないと、プロジェクト全体の進行にも問題が生じます。

プロジェクトチーム間での問題により起こったトラブルについて聞いたところ、「労働時間の増加」「仕事の重複」「必要のない仕事の廃棄」「スケジュールに間に合わない」などのリスクがあることがわかりました。

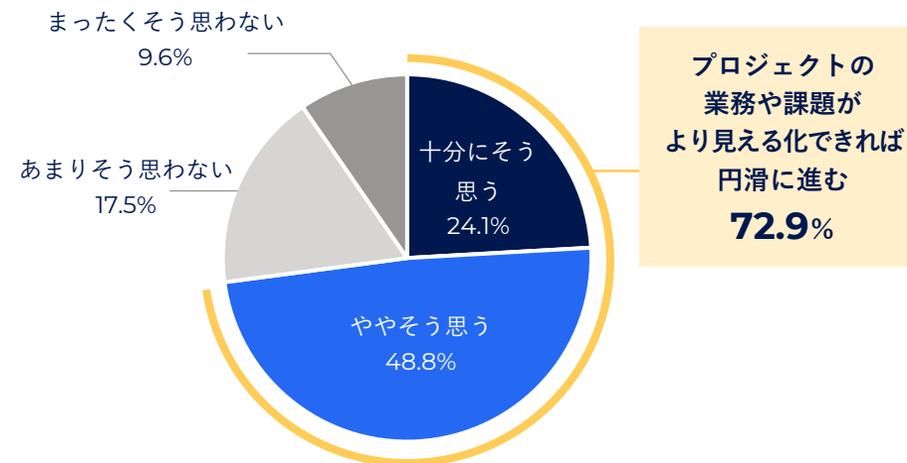
Q. プロジェクトチーム間での作業の問題により、あなたのチームに起こったことがあること (複数回答可)

1位	34.3%	労働時間を増やしたり、遅くまで仕事をしたりしなかった
2位	23.1%	既に行われた仕事の重複の対応が発生した
3位	22.5%	必要ない、または関連性のない仕事を捨てなければならなかった
4位	18.1%	締め切りに間に合わなかった

約73%が「プロジェクトの業務や課題がより見える化できれば円滑に進む」と回答

こうした課題の解決に向け、「プロジェクトの業務や課題がより見える化できれば、プロジェクトが円滑に進むと思うか」を聞いたところ、「十分にそう思う」(24.1%)、「ややそう思う」(48.8%)と、72.9%の回答者が見える化に期待していることがわかりました。

Q. プロジェクトの業務や課題がより見える化できれば、プロジェクトが円滑に進むと思うか。



「プロジェクトの見える化」で

早期に問題を発見し、

スムーズなプロジェクト進行を実現しよう

プロジェクトの全体像や各人が担当している業務の進捗がわかれば、ボトルネックを発見しやすくなり、業務上の課題が浮き彫りになります。そして迅速に課題を把握できればリーダー／マネージャーもリソースを追加するなどの対策が立てやすくなり、課題を速やかに解決できます。

そんなプロジェクトの見える化に役立てたいのが、プロジェクト管理ツールです。今回調査で「プロジェクト管理ツールは、業務や課題の見える化に貢献していると思うか」尋ねたところ、74.9%の回答者が「そう思う」と答えました。

プロジェクト管理ツールの導入で得られた5つの効果

さらにプロジェクト管理ツールの導入効果について聞いたところ、右表のように「優先度を可視化できた」「仕事の全体像が把握できた」などの効果がありました。

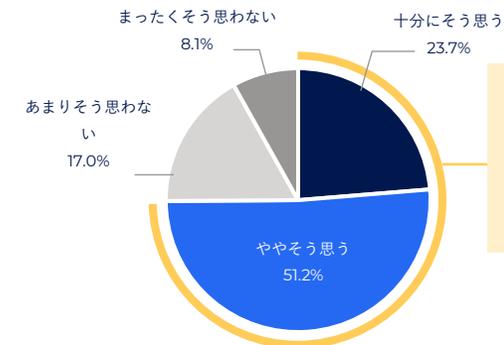
プロジェクト管理ツールはリーダー／マネージャーのマネジメントに役立つだけでなく、「コミュニケーションが活性化した」「業務の質が向上した」といったように、現場の質向上にも貢献していることがわかります。

Q. チームのプロジェクトにおけるプロジェクト管理ツールの導入効果 (複数回答可)

1位	23.0%	優先度を可視化できた
2位	22.5%	仕事の全体像が把握できた
3位	19.5%	スケジュールどおりにプロジェクトを遂行することができた
4位	19.4%	コミュニケーションが活性化した
5位	19.3%	業務の質が向上した

約75%が「プロジェクト管理ツールは、プロジェクトの見える化に貢献すると思う」と回答

Q. 現在利用しているプロジェクト管理ツールはプロジェクトの業務や課題の見える化に貢献していると思うか

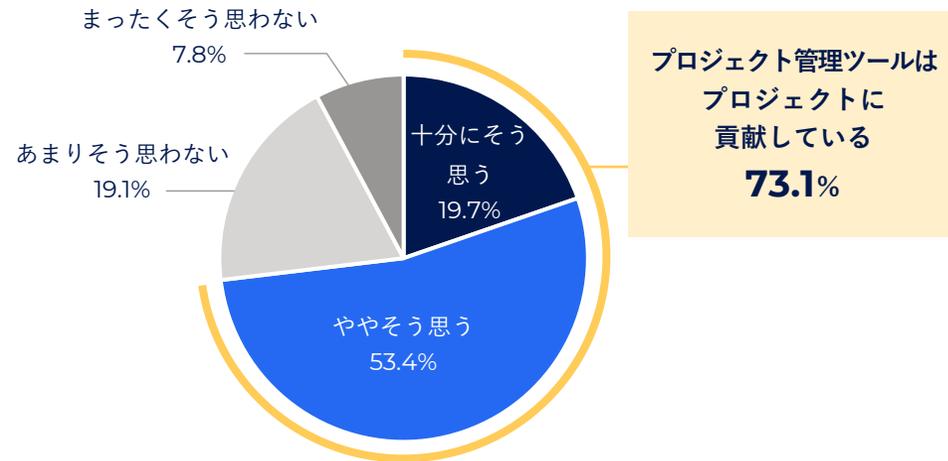


プロジェクトの業務や課題の見える化に貢献している
74.9%

プロジェクト管理ツールのプロジェクトへの貢献度

プロジェクト管理ツールがプロジェクトへ貢献していると思うか尋ねたところ、「十分にそう思う」が19.7%、「ややそう思う」が53.4%と、全体の73.1%がプロジェクト管理ツールの果たす役割を評価していると判明しました。

Q. プロジェクト管理ツールはプロジェクトに貢献しているか



円滑なプロジェクト進行により期待できるメリット

プロジェクトチーム間での作業はメンバーに様々な影響をもたらします。プロジェクトが円滑なプロジェクト進行により期待できるメリットについては、「ストレスが減る」が一番多く35.8%、「自分の仕事をコントロールできるようになる」が34.3%、次いで「仕事がより満足いくものと感じられる」との回答となりました。

Q. プロジェクトが円滑に進むと、発生しそうなメリット (複数回答可)

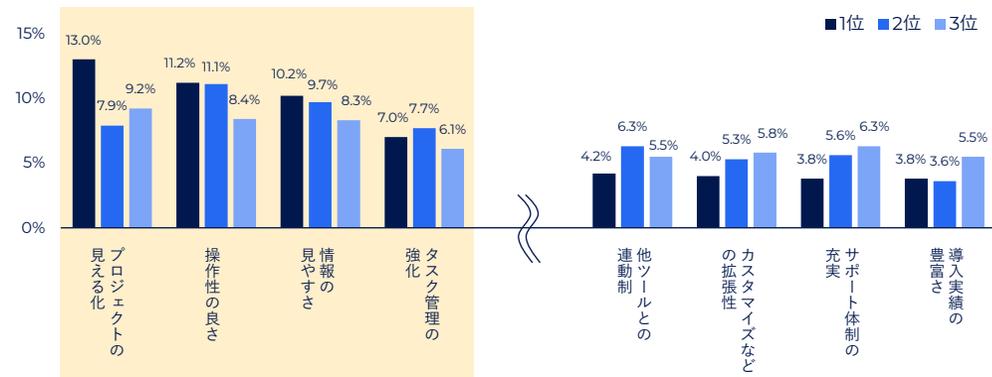
1位	35.8%	ストレスが減る
2位	34.3%	自分の仕事をコントロールできるようになる
3位	31.3%	仕事がより満足いくものと感じられる
4位	28.4%	プロジェクトに対する自分の貢献により集中できる
5位	24.1%	同僚との関係が改善する

ユーザーが答える「プロジェクト管理ツール」に必要な要件、不要な要件

「プロジェクト管理ツールに求めること」を3つ尋ねたところ、「プロジェクトの見える化」が全体のトップとなり、「操作性の良さ」「情報の見やすさ」と続きました。4番目は「タスク管理の強化」で、メンバーとの意思疎通が難しくなるなか「個々人のタスクを見える化したい」というニーズも高くなっているようです。

一方、あまり重視されていない項目は「他ツールとの連動」や「カスタマイズ性」「サポート体制の充実」「導入実績の豊富さ」でした。ここでも「プロジェクト管理ツールでプロジェクトを**見える化**したい」という強いニーズが明らかになり、操作性や視認性を含めて可視化機能が重視されていることが伺えます。

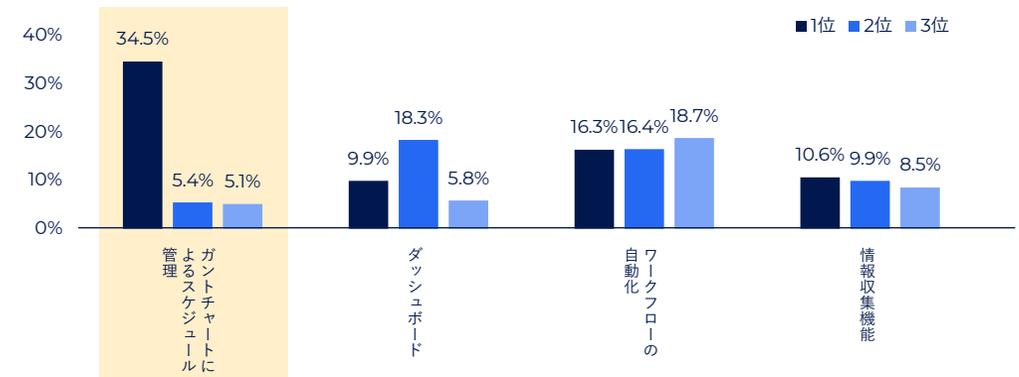
Q. プロジェクトチーム間の業務において、プロジェクト管理ツールに求めること (1~3位まで回答)



これは絶対外せない！プロジェクトの見える化に役立つ機能

プロジェクト管理ツールを導入し、特に業務の見える化に役立っている機能を尋ねたところ、プロジェクトの全タスクをタイムライン化し、各タスクの進捗よくや依存関係を可視化する「ガントチャートによるスケジュール管理」がトップという結果になりました。そして「ダッシュボード」「ワークフローの自動化」が続きました。プロジェクト全体を一目で把握できること、そして各人の業務工数の集計や進捗よく状況のまとめなど、毎日の定型業務で自動化することで、スケジュールどおりに円滑に進行できるという機能が支持されています。

Q. 現在利用しているプロジェクト管理ツールのどの機能が課題の見える化に役立っていると思うか (1~3位まで回答)

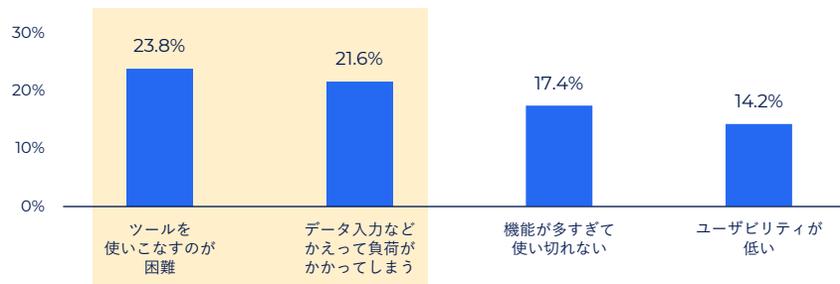


「プロジェクト管理ツールに対する不満」を知り、自社にあったツールを選ぶ

一方、現在利用しているプロジェクト管理ツールの不満点について聞いたところ、「ツールを使いこなすのが困難」(23.8%)、「データ入力など、かえって負荷がかかってしまう」が21.6%という不満があることがわかりました。また「機能が多すぎて使いきれない」(17.4%)、「ユーザビリティが低い」(14.2%)と、使いにくさや画面のわかりにくさも不満ポイントに上がっています。

現在、働き方が多様化しているため、さまざまなツールが登場しています。しかし、これらを実際に導入してみると、使いにくいとか使いこなせないといった課題が浮上しています。ツールを導入するには、利用者が使いやすいものや既に使い慣れているものを選ぶことが重要です。こうした選択が、プロジェクト管理ツールを最大限に活用するための条件の一つと言えるでしょう。

Q. 現在利用しているプロジェクト管理ツールの不満だと思う項目 (あてはまるものをすべて回答)



プロジェクト管理ツールの適切な適用範囲とは？

プロジェクト管理ツールを導入して見える化を推進するには、社内メンバーはもちろんですが、社外のメンバーや、直接タスクには関わらない経営層まで含めて適用するとより効果的です。業務や進捗が見える化されることで、課題発生の予測・把握が速くなり、適切に対策を構築できるからです。

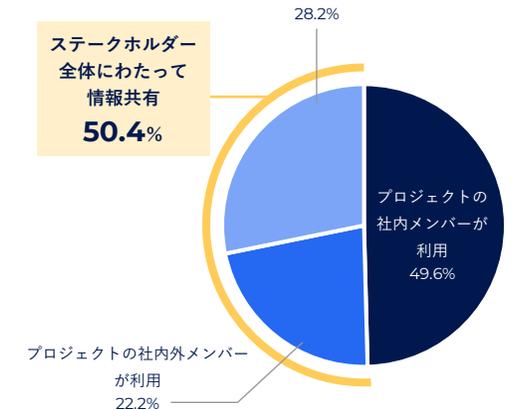
今回「会社におけるプロジェクト管理ツールの利用層」を尋ねたところ、「プロジェクトの社内メンバーが利用」という回答が49.6%と全体の約半数でトップとなり、「同じプロジェクトであっても社外のメンバーは利用していない」ケースが多いことがわかりました。

ただし「<プロジェクトの社内メンバーの利用>もしくは<社内外メンバーの利用>に加えて、業務の遂行に直接は関わらないマネジメント層や経営層も利用している」という回答は28.2%、「プロジェクトの社内外メンバーが利用」は22.2%であり、組織やプロジェクトの壁を超えてプロジェクト管理ツールを利用している層は50.4%と過半数に上っており、ステークホルダー全体にわたって情報を共有している企業のほうが多いといえます。

チームのコミュニケーション活性化を図りましょう。プロジェクト管理ツールの導入により、コミュニケーションが活性化したという成果も報告されています。

Q. プロジェクト管理ツールはどの層まで利用しているか

「プロジェクトの社内メンバーが利用」or「プロジェクトの社内外メンバーが利用」に加えて、業務の遂行に直接は関わらないマネジメント層や経営層も利用



前提

テレワークと
出社を組み合わせた
「ハイブリッドワーク」
が定着

日本全国におけるテレワーク実施率は2023年4月現在で30.0%、出社+テレワークのハイブリッドワークが進む
(内閣府調べ)

新たな課題が浮上

「『プロジェクトの見える化』
ができない」
という課題に7割が同意

- ・ リモートワークで働くメンバーとの意思疎通の難しさ (31.0%)
- ・ 「各人のプロジェクトへの貢献度が見えない」という意見に7割が同意

「プロジェクトの見える化」ができずに、労働時間増加(34.3%)、重複仕事の発生(23.1%)、必要のない業務の廃棄(22.5%)、締め切りに遅れる(18.1%)などの課題が浮き彫りに

解決策

プロジェクトの見える化に向け、
プロジェクト管理ツールの導入に**75%**が賛成

- ユーザーの75%が「プロジェクト管理ツールはプロジェクトの見える化に貢献すると思う」と回答
- プロジェクト管理ツールの導入により「優先度を可視化できた」(23.0%)、「仕事の全体像が把握できた」(22.5%)などの効果を実感

選択 見やすさ・シンプルさが鍵に

- ・ ツールに求める機能は「プロジェクトの見える化」「操作性の良さ」「情報の見やすさ」
- ・ プロジェクトの見える化に役立つ機能は「ガントチャートによるスケジュール管理」「ダッシュボード」
- ・ 機能が多すぎると「使いこなすのが困難」(23.8%)、「機能が多すぎて使いきれない」(17.4%)などの不満も。シンプルさと見やすさがツール選択のポイント

活用 部門やリモートの垣根を越え
「プロジェクトに関わる
社内外の全メンバーで利用
する」が5割強

プロジェクト管理ツールのユーザーは「プロジェクトに関わる社内外のメンバーが利用する」「社内外のプロジェクトメンバーに加えて、業務の遂行に直接は関わらないマネジメント層や経営層も利用している」という回答を合計して50.4%

「プロジェクト管理ツールを使いこなせば、働き方も業務の質も今よりずっと向上できる」

Smartsheetは、「プロジェクトの見える化」の課題を解決する、安全で柔軟なSaaS型プロジェクト管理プラットフォームです。シンプルで直感的な操作性と、Excelライクな使いやすいUIが好評です。機能面では、ガントチャートやカンバンによるタスク管理、繰り返し作業の自動化、各種ツールとの連携など、業務効率化や生産性向上を促進し、社内外を問わずあらゆる規模のプロジェクト管理をサポートします。